

『真の日中理解のために』

学校名・名前・担当教科：兵庫県立宝塚西高等学校 吉井 吏（英語科）
実践教科：英語 ・ S H R
指導時数：3 時間（英語 ）数回（ S H R ）
対象学年：高校 1 年生 対象人数：40 人

< 教師海外研修を通して感じたこと >

世界第 2 位に上り詰めた中国の経済発展には、JICA の支援活動が大きな力になっている。物的にだけでなく人的にも多大な支援を中国は日本から受けているのだということを、中国の一般庶民は知っているのだろうか。その知識格差が大きいことを感じる。今回の訪問で私たちが出会った人々は必ずしも親日的ではないとしても、過去の日中間の歴史から学んだ日本の、中国に対する姿勢を理解している人たちであると思う。それでも、そんな人たちはばかりではない。いまだに根強い日中間の諸問題。その原因の一つは、知識格差にあると思う。日本は中国を本当に理解していないし、中国も日本を本当に理解していないと思う。この教師海外研修はその知識のすれ違いの溝を埋めるきっかけであり、参加した私たちはそのきっかけを与える民間外交官であると自覚した。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

アジアに関する知識はある程度あっても、中国に関する知識は全くと言っていいほどない。

中国をマスコミが伝えるようなステレオタイプ式にしか考えられなかった。

漢字が苦手で、いまだに正しい書き順で書くことができない。

AFTER

中国に関する本を多く読むようになり、理解を深めるようになった。中国語学習を始めた。

政治的なものと庶民的なものは切り離して考えられるようになった。

表音文字としての漢字、そしてその成り立ちを意識するようになった。そしてこの文字を言語として使う国に住んでいることを誇りに思うようになった。

申し込み締め切り日まで参加するか迷ったが、結局、私の中では劇的ビフォーアフターになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

国際理解教育の実践に携わる教師として、これからはアジア理解とりわけ中国理解なしでは成り立たないと考え、中国文化を代表するものとしての言語特に文字に着目した。日本と中国は漢字文化圏であり、文字として漢字を共有している。表音文字である漢字が分かれば、ある程度理解は可能であることに注目し、教科書もある程度読解できると考えた。日中間ではとりわけ歴史認識の差が浮き彫りになることが多く、それが相互理解を難しくさせている。しかし中国の教科書を読むことでその違いを理解することができるはずだ。今回の研修では学校訪問の機会があることを利用し、中国の学生は日本に対しどう思っているかを生で捉え、自分が担任している学級と同じ内容でアンケートをとり、歴史認識の違いを含めた、いわゆる日中高校意識比較を主題として取り組んできた。

ステレオタイプという言葉があるが、私の担任学級生徒の中国に対する捉え方はまさにそのものだ。小・中学校で学んできた中国であり、中華料理の国である中国であり、マスコミによるイメージで踊らされてきた中国である。生徒のアンケートは予想通りそれを反映しているものばかりである。私の実践授業はそのステレオタイプを覆すことを目的にすべく計画した。わずか3回の授業実践だったが、その目的は達成されたように思った。後で具体的に触れるが、「中国をもっと理解しようと思った。」「中国語を学ぼうと思った。」「マイナスイメージを持った私たちは中国の人に対して申し訳なく思った。」など、生徒が学習後でもさらに自ら学んでいこうというきっかけを掴んだ反応はある意味私の予想外だったが、異文化に対して寛容的な姿勢があることの表れだと感じた。マスコミによる「植え付け」に左右されない、生徒の本当の中国についての知識欲を感じた。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 中国の文字(簡体字)を知る	<ul style="list-style-type: none">・ 中国の概要 人口・面積・民族構成など・ 中国の行政区画 各省・各市・各自治区の位置を確認・ 中国で使われる文字(簡体字)を知る この簡体字は日本の漢字では何か?を 現地撮影写真をヒントにして推測させる。 <p>* 簡体字理解は、2 時限目の教科書読解につながるよう、中国の教科書(歴史)で用いられた漢字を指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 教材プリント (学級だより) (当日使用プリント)・ 写真 (パワーポイント)

<p>2 時限目 中国の教科書（歴史）を読む</p>	<p>・中国の歴史教科書読解 1 時限目で学んだ簡体字を参考にして、中国の教科書（歴史）を読ませ、大体の意味を考え、日中相互の歴史観の違いをつかませる。（日本に関わっている内容を選び、班別にそのトピックを変える）</p> <p>* 3 時限目の橋渡しとなるように、特に歴史については、中国では日本をどのようにとらえているかを理解させる。</p>	<p>・中国の教科書 ・教材プリント（簡体字のまとめ）</p>
<p>3 時限目 教科書研究発表 & 感想 日中高校生の意識の違いを知る</p>	<p>・班別発表 各班ごとに与えられた項目について内容を発表し、あわせて感想を述べさせる。</p> <p>・アンケート結果発表 1 学期にクラスでとったアンケートのまとめと、中国でとったアンケートのまとめ</p> <p>・比較 9 つのジャンル別に日中高校生の相手国に対する意識の違いを認識させる。</p> <p>・第 2 次アンケート実施 日中の比較でわかったこと、学んだことを 9 つのジャンル別にアンケートを取る。</p> <p>* 歴史観の違いに真っ向から向き合い、日中相互理解への姿勢、問題解決への姿勢を養うきっかけとする。</p>	<p>・パワーポイント ・ワークシート</p>

2 . 授業の詳細

1 時限目 「中国の文字（簡体字）を知る」

目標

中国の概略を知り、イメージを抱かせる
簡体字を知り、2 時限目の教科書読解に繋げる

内容

中国の概要（地理データ、民族構成）
中国の行政区域（省・市・自治区）
簡体字を提示し、その文字を含んだ写真を見せ、その日本の漢字は何であることを推測させる。

使用した簡体字

时 读 场 产 车 桥 进 电 华 业 历 动 发 龙 议 机 灭

<ココがポイント>

これらの簡体字をクイズ形式であらかじめ学級だよりに掲載し、考えさせる機会を与えた。比較的簡単に推測できるものから並べた。第 2 時限の授業で取り扱うものだけを選んだ。



北京市内の道路案内板（橋）



北京市内の電器屋（電）

2 時限目 「中国の教科書を読む」

目標

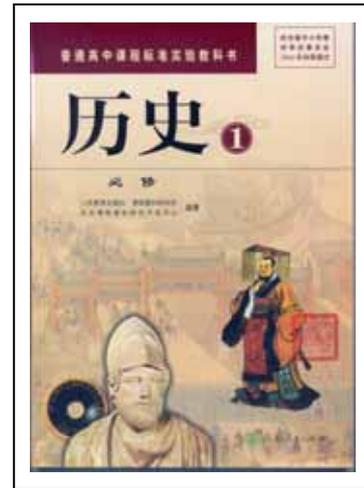
教科書を読み、歴史認識の違いをつかませる。

内容

新しい簡体字リストと読解のヒントを提示する。
5つの班に分け、各班が違う内容を読み、日本語でまとめる。

課題トピック

- 1 班 日中戦争（抗日战争 ...全民族的抗战）
- 2 班 一国二制度の提案
（祖国統一大業 ...一国两制構想的提出）
- 3 班 香港・マカオ返還
（祖国統一大業 ...香港，澳門的回归）
- 4 班 日中国交正常化
（开创外交新局面 ...中美，中日关系正常化）
- 5 班 日本の政治大国地位の追求
（世界多极化趋势的出现 ...日本谋求政治大国地位）



中国の教科書（歴史）

終了時に研究レポートを提出。まだの班は宿題とし、翌週始めに提出させる。

<ココがポイント>

生徒はグループで活動するので、漢字や地歴が苦手な生徒をお互いにサポートでき、話し合いながら新しい考えを出し合うことができる。学習探求する雰囲気を作り出すことが大切。



教科書の内容（1班課題）



教科書の内容（5班課題）

提出日	日中比較	生徒
2019年10月15日	日本の政治大国地位の追求	5

提出日	日中比較	生徒
2019年10月15日	日本の政治大国地位の追求	5

生徒の研究レポート（左1班、右5班）

生徒の反応
 古典授業で漢文を学習している時期でもあり、電子辞書を駆使しながら真剣に漢字を一字一字読み砕いている姿が印象的だった。班によっては段落ごとに担当を分担し合っていた。

3 時限目 「教科書研究発表・日中高校生意識比較」

目標

- 発表を聞き、知識を共有する。
- 意識の違いに気付き、それを理解する。

内容

- 前回研究レポートの班別発表と感想
- アンケート（お互いの国に対する意識）結果発表
 - 9つのジャンル（国、人、食事、学校、スポーツ、文化、言葉、歴史、お互いの関わり）ごとに、まず、本校生徒の結果を提示し、次に中国生徒の結果を提示する。
- 第2次アンケート実施（アンケート比較の感想）
 - 9つのジャンル別に比較した感想
 - この授業全体を通じた感想（次ページに一部を掲載）

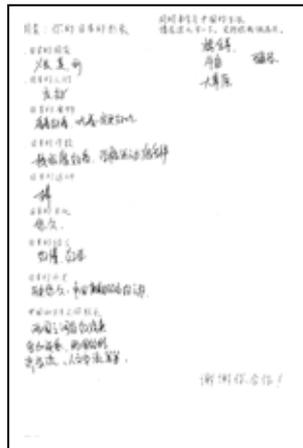
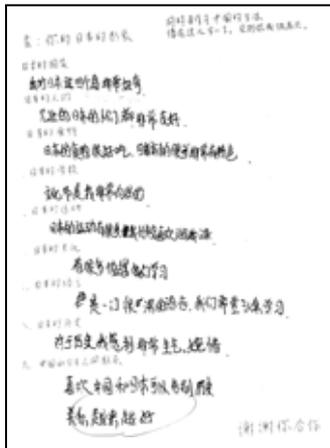


杭锦旗中学校



杭锦旗中学校の日本語クラスの様子

<ココがポイント>
 ジャンルごとに比較することにより、意識の違いが浮き彫りになる。教師が解説を加えることで、生徒はその違いを体感することになる。また結果発表の前に現地の学校や生徒の様子を写真で示すことにより、中国の学生を身近に感じさせることができる。



アンケートに回答中の杭錦旗中生

杭錦旗中生の回答済みアンケート（一部）

生徒の反応

予想と違う結果に驚いている様子だった。杭錦旗中生の回答項目の提示一つ一つに驚きの歓声、どよめきが上がった。本校生徒が新しい発見、新しい学びを感じた瞬間であったように思われた。第2次アンケート(事後アンケート)の結果にその学習の効果が表れ出ていた。

生徒の感想（第2次アンケートからの一部）

中国のことを勉強する機会なんて全然なかったのでとても良い機会だった。中国語を読んだり、和訳したりと普段できないことができて良かった。

今まで中国に対してあまりいい印象を持っていなかったけど、この授業を通じて少し考え方が変わった。戦争などの辛い歴史があったが、これからはもっとお互いのことを理解して関係を深めるべきだと思う。

中国は好きじゃなくて、あまり中国のこと知りたいとは思わなかったけど、中国のことを勉強しているうちに少しずつ興味が湧いてきて、もっと知りたいと思うこともありました。中国と日本は近い部分もあって、通じ合えることが多いかなと思った。また、自分でも調べてみたいと思った。

中国のことの授業を受けて中国のイメージが変わった。正直テレビとかのニュースの中国の悪い面ばかりを知っていたから、中国全体に悪いイメージを持ってしまっていた。だけど中国高校生の意見とかを聞くと、日本に対してとても良いイメージを持っていて、日本と良い関係を築いていきたいということが分かり、日本ももっと前向きに、ニュースとかだけで判断しないで中国のことについて理解していかなければいけないな、と思った。中国の教科書を読んで、大体の意味が分かったから、なんか改めて漢字が中国から伝わって来たんだなあ、と実感できた。中国のことについて授業を受けて中国のことも知れたし、良い経験になったと思うから良かった。

中国の人は日本に対して良いイメージをけっこう持っていてくれて、私たちが中国のことを少し変な国と思っていたことに申し訳ないと思った。私たちが大人になる頃にはもっと良い日中関係を築いていきたい。

所感

1 時限の簡体字紹介では、現地で撮影した、その文字を含む写真だけでなく、それにまつわる写真も多く取り入れ、生徒の視覚に訴えてみた。しかし授業としては単調なものに終わってしまった。そこで2 時限では生徒の活動を主体に置き、自ら探求し学ばせることで3 時限の授業への橋渡しとした。英語 の授業で行っている都合上、1 時限と2 時限の間が開いたが、この授業を心待ちにしている生徒も多く、異文化に対する知識欲の旺盛さを感じた。3 時限は2 時限の翌週に授業を入れ、生徒の授業へのモチベーションを下げることなく繋いでいくことができた。各班の教科書研究発表では全員静かに発表者に耳を傾けていた。

生徒も教師もまったく中国語の知識がないのに、中国の教科書を読ませようという試みは初めは無謀なことだと思ったが、漢字という文字を共有していることに着目し、折しも生徒が漢文を学習している時期であることが追い風となり、スムーズに活動が展開できたと思っている。そしてそういう意味において学びやすい外国語に触れることにより、生徒の外国語イコール英語という概念に風穴をあけることができたのではないかと、それが大きなきっかけになるのではないかと思ったりもした。

3 . 成果と課題

2010 年ほど中国に関するニュースが目立った年はない。とりわけこの2 学期の4 カ月は日中関係に大きな動きがあった。領土問題は国の主権に関わる非常にシビアな問題であり、私もマスコミが伝える中国に関する情報に振り回され、第1 時限の授業を9月に終えた後どのように第2 時限を展開させるべきか思案した。気がつけば12月、両国関係がある程度沈静化した時期に一気に第2、3 時限の授業を行った。今思えばこの時期だからこそ生徒も教師も冷静に中国を見つめ、授業実践ができたのではないと思う。成果は本校生徒の第2 次アンケートが示すとおりであり、隣国の本当の姿を知りたいことを映し出しているように思う。私が中国の高校生を対象に実施した調査結果が中国全人民を代表しているわけではないし、当然本校生徒もそのことは知っている。しかしこのような好意的な眼差しを送っている人も中国には多くいるのだということを知らせる役割を私たちは担っているという意味で、大きな成果をあげることができたと思っている。中国は2010年の教師海外研修の目的地にふさわしい場所だったと思う。

さて今後の課題としては、この貴重な研修体験を今回の授業実践だけでなく、いろいろな授業の場で伝え続けていかなければならないが、情報共有を教員間ですることも必要かと思う。また小学校、中学校の先生方がどのように中国をこの研修で見つめ、どのように授業実践をされてきたかを高校の教師が知ること必要だと思う。だから、この冊子が出来上がれば多くの先生方にこの授業実践集を読んで活用して頂くのも課題の一つである。生徒のアンケートにもあったが、彼らが大人になるまでに、自らの経験を通じた正しい情報を生徒に伝え、真の日中理解に取り組み、良好な日中関係を築ける人材を養成するのが私たち教師の役目だと思う。

参考資料

・参考文献

- 『そうだったのか！中国』池上彰（集英社）
- 『HSK 漢字学習字典』胡星（北京語言大学出版社）
- 『旅行で使える！伝わる中国語』田口善久（NHK 出版）

・教科書読解補助プリント（第2時限で使用）

中国理解② 中国の教科書を読んでみよう 12月15日（水）
 ・繁体字と日本語の漢字

陆	陸	开	開	胜	勝
为	為	权	權	军	軍
实	實	伟	偉	关	関
书	書	队	隊	归	帰
构	構	战	戰	础	礎
亿	億	敌	敵	广	広
义	義	转	転	击	撃
环	環	还	還	过	過

-(人の名前)
 邓小平 鄧小平 (とうしょうへい) 【中国】
 毛泽东 毛沢東 (もうたくとう) 【中国】
 周恩来 周恩来 (しゅうおんらい) 【中国】
 尼克松 ニクソン大統領 【米国】
 基辛格 キッシンジャー国務長官 【米国】
 撒切尔 撒ッチャー首相 【英国】
 田中角荣 田中角栄首相 【日本】

-(地名)
 华北 華北 华中 東北 華北 華南 華中 東北 (中国の地域名)
 卢沟桥 盧溝橋 (ろこうきょう) 北京市内にある橋の名前
 北平 北京の旧称 天津 天津 (テンシン)
 平津 北平・天津区域 上海 上海 (シャンハイ)
 广州 廣州 (こうしゅう) 武汉 武漢 (ぶかん)
 香港 香港 (ホンコン) 澳门 マカオ
 台湾 台湾 (たいわん) 越南 ベトナム
 西方国家 西側諸国 美国 アメリカ
 葡 ポルトガル

-(その他、読解に必要な中国語の語句)
 后 ～の後 了 ～した。
 的 ～の 个 一個
 关于 ～に関して 这个 この一
 可以 ～できる。 应该 ～しなければならぬ
 从 ～より、～から 目前 直前に
 和 ～と 还 まだ
 由于 ～のおかげで 刚刚 ちょうど
 被 ～された。 所谓 いわゆる
 没有 ～はない。

・パワーポイントシート
 （第3時限で使用したものの一部）

お互いの人 イメージ比較

日本 → 中国	中国 → 日本
<ul style="list-style-type: none"> 感情が豊か。 マナーが悪い。 賑やかな人が多い。 自己中が多い。 気が荒い。 何事にも熱い。 短気 好奇心が旺盛 	<ul style="list-style-type: none"> 親しみやすい。 礼儀を重んじる。 真面目である。 まとまりがある。 愉快だ。 暖かみがある。 ハイクオリティ。

お互いの歴史 イメージ比較

日本 → 中国	中国 → 日本
<ul style="list-style-type: none"> 三国志。 強い人物がたくさんいる。 古い歴史がある。 日本との交流。 韓国とごっちゃになっている。 隣国との戦争が多くあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 明治維新。 私たちは日本の歴史を良く知っているから、日中間の歴史もよく知って欲しい。 中国と密接な関係がある。 歴史を学びつつ自己を高めていこう。

・杭錦旗中生を対象に行ったアンケート用紙

調査：你的 日本形象
 同时学习中国的写法。请在这儿写一下。见到你我很高兴。

- 一、日本的服装
- 二、日本的人们
- 三、日本的食物
- 四、日本的学校
- 五、日本的运动
- 六、日本的文化
- 七、日本的语言
- 八、日本的历史
- 九、中国和日本之间关系

谢谢你合作!

日本と中国との関わり

中国 → 日本

- 隣国であり友好国。
- もっと多くの関係を。
- 中国と日本には辛い歴史があまりにも多すぎた。
- 両国がともに良い関係作りに協力する。
- 中国と日本の辛い過去の歴史に別れを告げ、よりよい関係を築きたい。
- 両国が経済交流や人的交流を深め、さらに友好関係を築かなければならない。
- 中日友好往来共同发展，共同繁荣。